

Ⅰ 長江(揚子江)上流地方

REEL No. A-0859

0314

アジア歴史資料センター

電信課長

電信案

(原議用紙甲) 圖

主任

空細

(起草大正)

年月日

件日清汽船支那軍隊輸送件

支那各地支那軍隊輸送件  
支那軍隊輸送件  
支那軍隊輸送件

宛 在重慶

清野領事

幣原工役

暗

第二三號

至

本件軍隊輸送...

本件軍隊輸送... 土曜... 對其... 備上... 緊急...

必要... 次... 付支... 船... 及... 船... 利用... 不...

足場... 船... 之... 輸送... 引受... 方... 承認...

電信案

電信案

外務省

電送第 7341 號  
昭和 5 年 8 月 5 日 一時 16 分 發

(原議用紙乙)

ラニ支無... 但... 右... 現下... 特殊... 多... 感... 忍... 見  
 今回... 概... 直... 例... ト... ハ... カ... 文... 件... 下  
 又... 船... 輸... 送... 多... 生... 了... 故... 對... 其... 支... 持... 方... 法  
 三... 於... 予... 員... 又... 不... 尋... 適... 宜... 日... 橋... ト... 支... 助... 例... ト... 爲...  
 船... 運... 送... 力... 充... 極... 致... 後...  
 上海... 華... 南... 系... 漢... 口... 宜... 昌... 二... 轉... 中... セ... リ

電信案

外務省

電送第 自 7942 號  
至 7944

器 5 年 8 月 1 日 晝 一時 4 分 發

電信課長

電信案

(原議用紙甲) 國納

管主 亞細亞 (起草大正 年 月 日)

件 日 信 信 部 局 係 協 送 商 務

宛 在 北 斗 空 野 村 記 氏  
在 世 世 任 務 根 據 出 示 手 續  
合 第 三 八 三 號

發 務 部 大 臣

本 局 於 昨 日 接 獲 電 報 中 二 三 號

請 即 函 示 轉 告 亞 細 亞

橫 濱 亞 細 亞 宜 昌 轉 電 亞 細 亞 各 附 記 氏

電 信 案 外 務 省

電信寫

海軍省  
送付済

八月六日

昭和5 一一五六七 暗

重慶 本省

八月六日前着

亞

幣原外務大臣

清野領事

第八〇號

往電第七八號ニ關シ

其ノ後支那側ヨリ本官ニ對シテハ何等申出ナク又未タ御回電ニ接セサルモ漢口、宜昌ヨリノ電報ニ鑑ミ艦長ト協議ノ末日清所屬船ノ來港ヲ見合ハサシムルコトナク軍艦側ヨリ港務管理局ニ對シ其ノ依頼ニ應シ能ハサル旨ヲ婉曲ニ回答シ置ケリ  
往電第七八號ノ通轉電セリ

電信寫

八月八日

昭和5 一一六八九 暗

重慶 本省

八月八日前着

亞

幣原外務大臣

清野領事

第八一號

貴電第二三號ニ關シ

其ノ後支那側ハ金城、吳興（宜昌宛拙電第一三號參照）ノ外更ニ三隻ノ支那汽船ヲ徵發シ萬縣ヨリノ派兵輸送ニ當ル見込ナルカ如クニテ外國船及本邦船ノ利用ヲ見合セタル模様ナリ  
上海、北平、南京、漢口、宜昌へ轉電セリ

電信課長

大臣

次官

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

文化

人事

文書

會計

寫送先

昭和6 七七五一 暗

重慶 十四日後發  
本省 六月十五日前着

亞

幣原外務大臣

清野領事

第九七號(至急)

萬縣王陵基師長ヨリ本官及艦長ニ對シ夫々「今回命ニ依リ三團ノ兵ヲ萬縣ヨリ宜昌ニ移スコトナリタル處現下ノ増水期ニ於テハ民船ノ航行難カシク而モ中國船ハ現ニ宜昌ノ部隊ヲ沙市ニ運送中ニ付今回下江ノ日清汽船會社雲陽丸ニ港務處規定運賃ヲ以テ其輸送ヲ依頼致シタク御許可ヲ蒙ラハ公私ノ厚誼ニ於テ感謝ニ堪ヘス」ト言辭鄭重ナル十三日附同文電報ヲ寄セ來レリ依テ不取敢請訓ノ上回答スヘシトノ旨返電シ置キ艦長ト協議ノ上本件解決迄雲陽丸ヲ停メ置クコ

外務省

トトシ艦長ニ於テモ請訓中ノ處王陵基ハ劉湘幕下第一ノ勢力者ニシテ常ニ親日ノ態度ヲ持シ我方ニ好意ヲ示シタルコトモ一再ナラサルニ付相成ルヘクンハ右希望ニ副ヒタク而モ右軍隊輸送ノ目的ハ王ノ來電ニ於テハ何等言及セサルモ土匪ニ對スル警備上ノ緊急ノ必要ニ基クモノニシテ中央軍ノ對廣東行動ニ直接ノ關係ナク客年八月上旬拙電第七八號ニ關スル軍隊ト相似タルモノト想像セラレ將又之ヲ拒絕スル場合ニハ強制乗船等ノ紛糾ヲ避クル爲ニハ少クトモ右軍隊ノ輸送終了迄適當ノ口實ヲ以テ日清所屬船ノ航行ヲ見合セシムルヲ必要トスル事情モアルニ付テハ右拙電ニ對スル貴電第二二三號ノ御回訓ニ準スル條件ヲ付シテ之ニ承諾ヲ與ヘテハ如何ニヤ何分ノ儀御回訓ヲ仰キタシ尙艦長ノ請訓ノ次第モアルニ付承諾差支ナシトノ御意

外務省

向ナルニ於テハ海軍側へ其旨御通報相成様致シタシ  
追テ前顯ノ通特ニ雲陽丸ノミヲ指定シ來リタル點ニ見レハ當地ヨリ  
下江ノ内外船ヲ同地通過次第利用セントスル腹ナルヘシト察セラレ  
支、上海、漢口、南京、宜昌へ轉電セリ

外務省

電信課長

電信課長

主任 (起草昭和三年三月五日)

件 日清汽船支那年派船送付

在重慶 清野館

去書九七年七月

大伴各年付書中ニ三ノ、意旨、依リ、本付、  
送カ土雁ニ付ス、堅急ノ必要ニ是

今四限リ、増量ミテ先向トカニ一カラサレ、  
電信課案

電送第 8475 號  
昭和 6 年 6 月 15 日 7 時 28 分 發

大伴、下、  
管、主、  
任、主、  
任、主、

電送第 15475 號  
25477  
昭和6年6月15日 午後7時28分發

電信案

外務省

3.2

本大臣奉 重慶 宛電 報 二。子

以 陸 軍 部 宛 電 報 三。子

漢口 宛 電 報 三。子

主 管

任 主

(起草昭和六年六月十日)

(原議用紙甲)

件 日清汽船支那年旅 旅 運 係

名 込 綴

在 華 領 事 代 理 官 氏

在 南 京 市 上 有 領 事 官

在 漢 口 市 有 領 事 官

合 第 三 四 一 號

發 郵 申 報 官 氏

電信課長

電信案

(原議用紙甲)

電信案

外務省

3.2

明 日 之 事 業 日 後 三 年 後 債 古 掛 介 佐 乃 武 器  
一 張 荷 船 上 年 後 込 込 下 本 件 旅 運 三 基 キ 乃 故 奔  
生 傷 合 三 中 出 創 三 基 任 乃 乃 入 キ 亦 尋 常  
当 一 条 件 乃 取 担 上 旅 運 乃 乃 支 付 シ メ 手 差 支  
ナレ 海 軍 省 一 打 合 協  
代 理 官 氏 上 南 京 市 有 領 事 官 氏 直 屬 三 付 申 報 官 氏

(原議用紙乙)

電信課長

大臣

次官

亞細亞

歐米 通商 條約 情報 文化 人事 文書 會計

寫送先

昭和6 七七六一 暗

重慶 本省

十五日 六月十五日後着

亞

幣原外務大臣

第九號

在電第九七號ニ關シ

艦長ニ對シ司令官ヨリ左記ノ通回訓アリタリ

稟請ノ件ニ對シテハ外務省所掌ナレトモ海軍側トシテハ目下ノ狀況

ニ於テハ同一勢力範圍内ノ軍隊移動ナルニ付

一、武装ヲ解除シ

二、武器ハ荷物トシ

三、船員ハ乗客トシテ正當ノ賃銀ヲ支拂ヒ

分類

外務省

四、船内ニ於テハ絶對的ニ船員ノ指圖ニ從フコト  
ヲ條件トシテ運搬差支ナキ内意ナリ  
前電通り轉電セリ

外務省



寫送先

會計 文書 人事 文化 情報 條約 通商 歐米

亞細亞

次官

大臣

電信課長

印

昭和6 七九一二

重慶 本省

十八日後發 六月十八日後着

亞

幣原外務大臣

清野領事

第九九號

貴電第二〇號ニ關シ

十六日艦長及日清汽船會社ト協議ノ末八ヶ條ノ條件ヲ付シテ承諾ノ旨返電シタルニ對シ十七日王ヨリ右條件全部履行スヘキ旨返電アリタルニ付雲陽丸本件輸送ヲ爲ス爲十八日早朝當地出帆スル筈委細郵報スヘシ前電通り轉電セリ

(前電第九九號ハ第九八號ノ誤ト認メラル)

外務省

記録件 支那各地に於ける日清汽船會社の輸送業務に關する件

機密第一一二號

昭和六年六月十八日

在重慶

領事 清野長太郎

外務大臣男爵 幣原喜重郎 殿

雲陽丸ノ王陵基部隊輸送ノ件

貴電第二〇號及拙電第九九號ノ本件ニ關シ王陵基トノ來往電寫別紙茲ニ貴覽ニ供ス委細右ニテ御諒知相成程度尙ホ乘船條件履行ニ使スヘク當該指揮官ニ提示セシムルタメ雲陽丸船長ニ對シ  
今回ノ輸送ハ左記條件ヲ王陵基師長ヨリ承諾履行スル旨電報アリタ

昭和六年七月八日 別紙添付 接受

B1

ルタメ本官ニ於テ特ニ之ニ承諾ヲ與ヘタルモノナルニ就テハ乘船ノ  
指揮官ト打合セノ上同條件ヲ完全ニ履行スヘシ。  
トシテ各條件ヲ記載セル漢文命令書ヲ交附シ置ケリ  
右報 告 ス

寫送附先 公使 上海 漢口 南京 宜昌

甲辨

昭和六年六月十三日

萬縣發  
重慶著

第二十一軍第三師長王陵基來電

日本清野領事小島艦長均鑒本師九旅共三團奉命移防  
宜昌現在水大木船不易行動而中輪正運宜昌部隊到  
沙市雲陽下駛擬懇准運做師到宜水脚照航務處規  
定結算如蒙許可公私感謝王方舟叩元

(譯文) (宛名略)

今回命ヨリ本師九旅合計三團ノ兵ヲ万縣ヨリ宜昌  
ニ移スコトナリタル處現下増水ニ於テハ民船航行  
六ヶ敷ク而カモ中國船ハ現ニ宜昌ノ部隊ヲ沙市ニ運  
送中ニ付今回下航ノ自清汽船會社雲陽丸ニ航務  
處規定ノ運賃ヲ以テ其輸送ヲ依頼致度御許可  
ヲ蒙ラバ公私交誼ニ於テ感心謝堪ス

乙 報

昭和六年六月十六日午前

王陵基宛電報譯文

- 貴部ノ輸送ハ土匪ニ對スル警備上ノ緊急必要ニ基クモノト想像セラ  
ルニ付左記ノ條件ヲ御承諾履行セララルニ於テハ今回限り御希望ニ應  
スヘキニヨリ條件諸否ノ如何ト共ニ乗船日取り御回電ヲ乞フ
- 一 本回ノ輸送ヲ先例トセサルコト
  - 二 武装ヲ解キ武器ハ船長ノ指定スル一室ニ收ムルコト
  - 三 乗船人員ハ千五百名以内ニシテ洋艙及厠板其ノ他禁止セル箇所ニ  
出入セシメサルコト
  - 四 本輸送ニ基キ事故發生ノ場合ニハ貴方ニ於テ責任ヲ負フコト
  - 五 乗船中ハ船員ノ指示ヲ絶対ニ遵守セシムルコト

BIT

- 六 船中ノ秩序維持又ハ船長トノ交渉ニ責任ヲ負フヘキ相當指揮官ヲ  
乗船セシムルコト
- 七 運賃ハ食事ヲ給セス萬宜間一人二元ヲ支拂フコト
- 八 宜昌着次第直ニ下船スルコト

BIT

丙 卯

昭和六年六月十七日 萬縣發 重慶着

第二十一軍第三師長王陵基來電

日本清野領事台鑒 銑電備悉 承允代敝師運兵赴宜 無任感謝 所示八條 悉依照辦理 十九二十兩日均可特此 奉復 王方舟叩 篠

(譯文) (宛名略)

十六日附貴電拜承 敝師ノタメニ宜昌ヘノ兵ノ運送 方御許シヲ賜リ 感謝措ク能ワズ 御提示ノ八條 八遵奉辦理スベシ 乘船ハ十九、二十兩日何レニテモ 可ナリ 特ニ此ニ返電申上ゲ

王 十七日

CII

丁 卯

昭和六年六月十七日

王陵基宛松電譯文

十七日附貴電拜承 而云陽ハ十八日貴地到着ス ハヤニ付着船ト同時ニ直チニ揮<sup>箱</sup>官ヲ派シテ該船長 ト打合セシメラシ度ク尚乘船ノ用意ヲセシメ置カシ 度シ

CII

電信寫

秘

昭和6

暗

漢口  
本省

六月廿五日前着

亞

幣原外務大臣

第四二一號

宜昌發本官宛電報第二六號

外務大臣及在支代理公使へ轉電アリタシ

漢口宛往電第二五號張旅ノ二個團雲洋丸其他ニテ既ニ到着シ張旅長

ハ未着ナルモ郵旅司令部ノ幹部本日汽船ニテ沙市へ向ヒ郵旅長ハ明

朝飛行機ニテ出發ノ善

沙市へ轉電シ重慶、長沙へ轉送セリ



Handwritten notes in the top right corner, including the characters '神' and '子'.

Handwritten notes and a circular stamp at the bottom right corner.

魚

電信課長

大臣

次官

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

人文

文書

寫送先

昭和6 八五一四 暗

重慶 本省

六月卅日後發  
七月一日前着

亞

幣原外務大臣

清野領事

第一〇二號

往電第九九號ニ關シ

日清汽船當地主任者ノ報告ニ依レハ乗船兵ハ案外ニ規律正シク船中何等不都合ノ行爲ナク船賃モ完全ニ支拂ヲ受ケタル趣ニシテ會社側トシテハ航業不振ノ折柄ナルニ付寧ろ喜ヒ居レリ右爲念前電通轉電暗送セリ

記録付

昭和六年六月卅日午後發  
七月一日前着  
亞細亞  
歐米  
通商  
條約  
情報  
人文  
文書

外務省

大臣

次官

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

人文

文書

寫送先

電信課長

昭和6 八五一八 暗

重慶 本省

六月三十日後發  
七月一日後着

亞

幣原外務大臣

清野領事

第一〇一號

廿八日當地出港雲陽丸船長ヨリ廿九日朝「昨夕萬縣ニテ王  
ホウシヨ  
ウヨリ宜昌行軍隊約三百名ノ輸送方交渉アリ先航ノ例モアリ武裝セ  
ス一般船客並ミ但シ運賃ニ弗トシテ搭載スルコトニ取計ヒタリ御含  
ヲ請フ本船午前五時半萬縣發午後四時宜昌着ノ豫定」トノ旨當地警  
備艦堅田艦長宛無線電信アリタル趣同艦長ヨリ通知アリ往電第九九  
號ノ輸送ハ將來先例トナス可カラサルコトヲ其第一條件トナシ居ル  
ハ同船長ニ於テモ承知シ居リ且同船ニハ何時ニテモ軍艦ト通信シ得

記録付  
又那各如共運兵  
又那各如共運兵  
又那各如共運兵  
又那各如共運兵

外務省

ル無電ノ設備アルニ拘ラス當方ニ何等事前ノ相談ナク獨斷ニテ斯ノ如キ措置ニ出テタルハ遺憾ノ次第ニ付不取敢日清汽船ノ主任者ヲ招キテ本官ノ同意ナキ限り軍隊輸送ヲ爲ササル様嚴重警告ヲ與ヘ置キタリ

支、上海、漢口、南京へ轉電シ宜昌へ暗送セリ

外務省

電信課長

大臣

次官

亞細亞  
歐米  
通商  
條約  
情報  
文化  
人事  
文書  
會計

寫送先

昭和6 八六二七 暗

重慶 本省

三日後發  
七月四日前着

亞

幣原外務大臣

清野領事

第一〇五號（至急）

當地港務監理局長ヨリ近ク當地ヨリ多數軍隊ヲ下流ニ輸送スルヤモ計リ難キ處其運送船ニ困シ居ルニ付テハ武器ハ他ノ支那船ニ積ミテ無武装ノ兵ノミノ宜昌迄ノ輸送ヲ貴國船ニ依頼スルトキハ之ニ應セラルル意嚮ナルヤヲ本官ニ對シ非公式ニ尋ネ來レリ右ニ對スル取扱振り御訓電ヲ請フ

代理公使、漢口、南京へ轉電セリ

外務省

海軍省

電

付送  
二  
六  
八

電送第6289號  
第6年7月7日

電信課長

電信案

主 管  
亞細亞局長

主 任

(起草昭和二年七月四日)

(原議用紙甲)

件 日本海軍航空隊輸送件

名 込 綴

在 重 慶

法 務 部

發 部 長 大 臣

第 二 四 號

去 署 弁 一 〇 五 号 旨

本件輸送、土匪警備、為大ニシテ又ノナリヤ否ヤ不レ

尤又憲ニ即同一勢力範圍内、移動ニテ直接内

部事務、為ニシテ又ニシテ非ナルニ付、大任去署旨

電 信 案

外 務 省

3.2

(原議用紙乙)

九九号ノ場合ト同様ノ条件ニテ且成ルヘク支那側申出

ノ如ク武器、支那船ニ積ム事トシテ輸送許可者支ナ

シ、尤去署旨一〇五号旨、支那側ニ付、兼船名、

輸送回數、發着日時、尋其、即度、且條昭ニ

去署旨、承認ヲ求メシニ、稱申出、及日清海軍ニ、單

ハ申渡シ、直ニ度、復年者ト、協議、

代理、使、漢口、南京、宜昌、ニ、付、モ、ヤリ

電 信 案

外 務 省

3.2



電送第 日6286 號  
 至6286  
 日6年7月7日

電信課長 (原議用紙甲)

主任 (起草昭和六年七月四日)

件 日本汽船支那年海路運送件

宛 在青島 在漢口 在天津  
 在青島 在漢口 在天津  
 在青島 在漢口 在天津

發 勸業局長

本方以發會慶祝為故亦二四五

此項會慶祝二〇年慶祝在青島位元電報才  
 一百五十五元上者上指二切報了  
 漢口位元二〇年慶祝在天津元電報才  
 一百五十五元上者上指二切報了

電信課長 外務省

文書課長 (原議用紙甲)

文書課發件 勸業局長  
 淨書 (原稿) 校(原稿) 勸業局長 (淨書) 陽  
 (起草昭和六年七月三日)

主任 號 昭和六年七月三日 附屬書 通

受信 機 勸業局長

人 勸業局長

件名 雲陽丸ノ王陵墓部隊  
 輸送ノ件

名 込 綴

御參考ノ爲別紙送付ス

昭和六年二月十八日附在勸業局長來電第二二號寫並附屬書寫

公 信 案 外 務 省

電信課長

大臣

次官

亞細亞  
歐米  
通商  
條約  
情報  
文化  
人事  
文書  
會計

寫送先

昭和6 一二〇七四 暗

重慶

八日後發  
本省 九月九日前着

亞

幣原外務大臣

清野領事

第一四六號

昨七日夜當地川江港務管理處長ヨリ一王陵基所屬ノ二連ノ兵萬縣ニ  
急行ヲ要スル處近ク出港スル汽船ナキニ依リ八日出港ノ川東公司ノ  
長風丸搭乘セシメタク就テハ當テ雲陽丸カ萬縣ヨリ宜昌迄同部隊ノ  
兵ヲ運送シタルトキノ條件(六月十八日附通信第一一二號添付御參  
照)ニ準シテ責任ヲ負フヘキヲ以テ承諾ヲ與ヘラレタシトノ旨申  
越シアリタル處長風丸ノ特殊性(上海宛拙電第六三號御參照)ヨリ  
シテ之ヲ拒絕スルニ於テハ面白カラサル事件ヲ惹起スヘキ懸念モア

外務省

リ且ハ王陵基ニ對スル情誼ノ關係モアルニ付七月上旬貴電第二四號  
ノ御訓示ヲ體シ警備艦側トモ打合セノ末承諾ヲ與ヘ置キタリ右御含  
置ヲ請フ  
支、上海、南京へ轉電シ、漢口、宜昌へ暗送セリ

外務省

記  
之ヲ他長  
支那軍隊  
送ル  
ハ  
ハ  
ハ

電信課長

大臣

次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 人事 文書 會計 秘書官

寫送先

昭和10 一三一 二八略

南京 本省

一月廿六日後着

亞

廣田外務大臣

第七四號

本官發支宛電報

第七二號

汪外交部長ハ廿五日附閣下宛照會ヲ以テ軍政部ヨリノ申越ニ依レハ  
入川剿匪部隊輸送ニ關シ宜昌重慶間ハ支那船ノ輸送能力甚タ貧弱ナ  
ルヲ以テ三省剿匪司令部ヨリ再三外國船借入方申請アリタル處曩ニ  
四川當局ヨリ重慶各國領事ニ折衝ノ上夫々外國船ヲ借用シタルコト  
モアリ今回重慶川江航務處ニ對シ最寄ノ外國會社ニ付借用手配方電

外務省

支那各地に匪徒相集  
去都省際輸送ハ支那船に自國船  
ノカ

命シ置キタルカ外交部ヨリ各國領事ニ依頼ノ上各船會社ニ轉命協  
力方取計ハレタシトアルニ付右様取計ハレンコト希望ニ堪ヘストノ  
趣旨申越セリ原文郵送

大臣、北平、漢口へ轉電セリ

上海へ轉報アリタシ

漢口ヨリ重慶、宜昌、九江へ轉電アリタシ

外務省

(分類A門6類/項分目4-7)

東亞局  
機密 第七〇五號

昭和十年一月二十八日

在南京

總領事 須磨 彌吉 郎



外務大臣 廣田弘毅 殿

昭和十年一月二十八日附機密第五〇號有吉公使宛公信寫送付

件 名

入川剿匪部隊輸送ニ關シ郵船借入申越ノ件

機密第五〇號

昭和十年一月二十八日

在南京

總領事 須磨 彌吉 郎

在中華民國

特命全權公使 有 吉 明 殿

入川剿匪部隊輸送ニ關シ郵船借入申越ノ件

本件ニ關シテハ不取敢本月下旬在電ヲ以テ概要及報告置タルカ右原文別紙轉送ス御査収相成度

本信寫送付先 大臣 上海 漢口 重慶 宜昌 沙市 九江  
北平

昭和十年貳月 六日發受  
別紙添附

手

(A門6級) 日4-7)



一〇 一三一 二二二〇 無線 比良發  
二 一 〇〇一九 着 (一) 二

在上海 佐藤 武官

次官、參艦隊參謀長、長井武官  
次長、十一戰隊司令官

機密第 二二二 番電

一、外交部長ヨリ二十五日附照會ヲ以テ須磨總領事ヲ介シ有吉公使宛  
左記申越セリト  
軍政部ヨリ申入レニ依レバ宜昌、重慶間剿匪部隊ノ輸送ニ外國船ヲ  
借用シ度キヲ以テ重慶川江航務所ニ對シ最寄外國船會社ニ交渉方  
命シ置キタルモ外交部ヨリモ各國公使ニ依頼アリ度ト就テハ各  
船會社ニ傳達協力方取計ハレ度シ  
二、當地日清汽船エテハ上流ニ於テ未ダ右ニ關シ交渉ヲ受タル報告ニ  
接セズト。 三十一日

二二二〇〇〇

大中華民國兼署外交部長汪

照會事、准軍政部咨、以派軍入川剿共、需用江輪輸送部隊、惟目宜  
昌至重慶一段、華商川輪數日有限、容量亦甚狹小、茲准豫鄂皖三  
省剿匪總司令部催請增租外商川輪應用、以資運送、經查英、美、法  
日、義各國商輪公司所有川輪數目頗多、前年川省當局曾與重慶各國  
領事商准租用一次。除電重慶川江航務處就近接洽租用外、擬請貴部  
商請各該國駐使轉飭各該商輪公司協助等因、准此。相應照請  
貴公使查照、即希轉飭遵照、至緬陸誼。須至照會者。

右 照 會

大日本國駐華公使有吉

汪 兆 銘

中華民國二十四年一月二十五日

電信課長

大臣  
次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 人事 文書 會計 秘書官

寫送先

支那各地共匪五卅停滯  
支那軍隊輸送為難  
略使可停滯

昭和10 一七九〇

暗

2. 4

南京  
本省

一日後發  
二月二日後着

亞

廣田外務大臣

第一〇〇號

本官發支宛電報

第九八號

往電第七二號ニ關シ

本一日「ハウ」ハ本官ニ對シ英國ハ各關係船會社ニ都合ヲ問合セ居  
ル處事實融通シ得ルニ於テハ公使館トシテハ望マシキコトト思考シ  
居ルニ付何レ會社ヨリノ回答ヲ待チ正式ニ支那側ニ返事スル積リナ  
リト語レリ

外務省

大臣、北平、漢口ニ轉電セリ  
上海へ轉報アリタシ  
漢口ヨリ九江、宜昌、重慶へ轉報アリタシ

外務省

電信課長

大臣

次官

東亞 歐洲 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 人事 文書 會計 會社 秘書官

寫送先

支那各地外國領事館  
支那各地外國領事館  
支那各地外國領事館  
支那各地外國領事館  
支那各地外國領事館

昭和10 一七九八 暗

2.

漢口 二日後發  
本省 二月二日後着

西

廣田外務大臣

三浦總領事

第三二號

南京發公使宛電報第七二號ニ關シ

重慶航務管理處ハ二十五日同地内外各汽船會社ヲ招キ(日清ハ除外ス)軍隊輸送ニ對シ便宜取計方懇請スルト同時ニ之ヲ應諾セサル船會社ニ對シテハ今後積荷スヘカラサル旨決議シタル處宜昌航業公會ニ於テハ右決議報告ニ基キ二十八日各汽船會社(日清ヲ含ム)ヲ招キ本件討議ノ結果太古、怡和等ハ大體ニ於テ輸送方應諾ノ意嚮ヲ示シタル趣ヲ以テ若シ外國會社側カ本件ヲ應諾スル場合日清ノミ之ヲ

外務省

拒絕スルコトハ積荷ニ對スル妨害モ豫想セラルル次第ニモアリ結局支那側ヨリ申込ヲ受ケタル際ハ(一)適當運賃ヲ支拂ハシムルコト(二)統制ノ取レル指揮官ヲ乗船セシムルコト(三)人數ハ日清ノ指定ニ從フヘキコト(四)其ノ他船内規則ヲ遵守スルコト等ノ條件ノ下ニ應諾スルコトトシタキ旨宜昌日清出張所ヨリ當地日清支店ヘ申越シ來レル由ニテ當地日清ヨリ本官ニ指示方願出タリ  
右ハ外國汽船會社ト同様ノ條件ニテ(前記各項ヲ採入ルルコトトナルヘシ)應諾差支無キヤニ思料セラルル處何分ノ儀御回訓ヲ請フ  
支、北平、南京、九江、宜昌、重慶へ轉電セリ  
支ヨリ上海ニ轉報アリタシ

外務省

(分類A門6類1項1目4-7)

子

軍務局長、漢口、南京、上海駐在武官

軍令部二、三部長、三艦隊參謀長、麾下

機密第三番電

一〇二三 一〇〇〇 無線 安宅發  
一三〇〇 着 (二二五) 二

十一戰隊司令官

ソノ子  
その船隊運送  
取船使用関係

丸

目下宜昌ニ於テ支那側ハ剿匪部隊ヲ入川セシムル爲之ガ輸送ニ外國汽船ニモ及ビタキ旨重慶航務管理處及日清汽船會社ニ申出アリ且外交部ヨリモ各國大公使宛照會アリタル田ニテ之ニ對シ日清汽船會社ニテハ適當ナル運賃ヲ支拂フコト  
口確實ニ軍官ノ統制下ニアルト  
日船ノ規則ヲ守ルト  
等)條件トシテ應諾スル分ニ於テハ當方トシテハ從來ト異リ内争ニ關係ナキ軍隊輸送ナルヲ以テ一兩船會社ノ營利的關係事項トシテ處理セラレベキモノト認ム、特ニ之ニ干與セザル旨回答キ置キタリ。

三一〇三〇



電信課長

大臣

次官

東亞、歐亞、米洲、通商、條約、情報、文化、調查、人事、文書、會計、秘書官

寫送先

昭和10 一八六五 2. 暗

上海 四日後發  
本省 二月四日後着

亞

廣田外務大臣

有吉公使

第一〇七號

南京發本使宛電報第七三號ニ關シ

本件輸送ハ剿匪隊ノ移動ニシテ何等内争ト關係ナキヲ以テ昭和六年重慶宛貴電第二四號ノ趣旨ニ依リ日清汽船ニ於テ輸送能力アル場合ニハ之カ輸送方ニ應シ遣リ差支ナシト存セラルルニ付外交部公文ニ對シテハ之ヲ了承スルト共ニ申越ノ趣ハ關係各地駐在領事ニ傳ヘ置クヘキ旨回答シ度キ處右ニテ差支ナキヤ御回電ヲ請フ  
尚本件ニ付テハ當方ヨリノ打合ニ對シ海軍武官ニ於テ第三艦隊及第

外務省

支那各地共匪關係雜算  
支那軍隊輸送ノ打船使用關係

十一部隊ノ意見ヲ問合セ中ナリシ處三日第十一部隊ヨリノ着電ニ依レハ本件ハ直接内争ニ關係ナク且船會社ノ營利問題ナルヲ以テ海軍トシテハ之ニ關係セサルコトトセリトノコトナルニ付右御含アリタ  
北平、南京、漢口、宜昌、重慶、九江へ轉電シ上海へ轉報セリ

外務省

東亞局第二課長  
寫海分署  
通二

分類/門/類/項目(4-7)

電 信 案	外 務 省	那例申去ヲ應諾セシムト差支ナキ天在条件ハ冒頭費 外國会社ト振今モアリ日清汽船ヨリ言古ノ条件ニテ支 貴官カニニ事ノ別ニ	暗	電話第	1	號	管主
			平暗	昭和10年2月5日	午後5時30分	東亞局長	
			第	件	宛	在漢口	主任
			ハ	(着工) 船ノ件	三浦海船		東亞局第二課長
			號	日清汽船ノ支那軍隊輸			
				名件録記	發		昭和十年二月五日
					14日大		日起草

電信課長

23

23

昭和十年二月五日

事件費友辨

4門/報/取/日4-7

電 信 案	在支公使宛ニハ南京ニ轉報アリタシト附記ノコト 在滿大使宛ニハ奉天ニ轉報アリタシト附記ノコト 聯盟局長宛ニハ土ヲ除ク在歐各大使ニ轉電アリタシト附記ノコト	暗 本 略	電送第 1 號 昭和十年二月五日 午後 5 時 30 分發	主 管 亞 細 亞 局 長 }	任 主 亞 細 亞 局 第 一 課 }	昭 和 十 年 二 月 五 日 起 草
		件 日清汽船ノ支那軍隊輸送 ニ關スル件	宛 ○在支有吉公使 ○在北平中山書記官 ○在滿武藤大使 ○在南京領事館 ○在九江西勿領事	發 內 田 大 臣	名 件 錄 記 楊 少 江 航 運	號 第 一 〇 一 號

電信課長

5 29

電未設各埠外往年同汽船会社之於支那地方最  
 仍更ヲ輸送足切今一例之モ腐リし本件輸送(今回限  
 リ一搭是ルニテ先例トナス(カ)サレト武器ハ一搭荷物ト  
 ニテ積込ムト及本件輸送ニ基キ事故發生ノ切今ハ  
 支那側ニテモ事出シヨリモノナレト事手ニ付テ之取  
 可為サレト不可然ト存ス海軍側ト打合清  
 宜昌色上陸ノ時電了ル  
 公使上海、物部、九江、電報ニ轉電ス

適宜

外務省

A 6-10514-7

機密

機密第二二番電

次官、三艦隊參謀長、  
次長、十一戰隊司令官、  
長井武官、

一〇二七  
〇九〇〇  
一一一〇

無線  
浦風發  
着 (五三七)

在上海 特務機關首席武官

九

英國商船ニシテ支那軍隊輸送ニ從事スル場合之ニ武装護衛兵ヲ附スベキヤ  
否ヤニ對スル英國長江警備司令官ノ方針ハ雇傭商船ニシテ一時會社ノ手ヲ  
離レテ支那政府ノ管理下ニ置カル、ガ如キ事ナケレバ武装護衛兵ヲ附スル  
差支ナキモ船上ニ於テ支那側ガ多少共權力ヲ行使スルガ如キ情態ニ於テハ  
之ヲ附スルヲ得ズ、々々  
右二點ヲ明確ニシ各々ニ對スル處置ヲ講セントスルニアリ。

FOUR

六 日

電信課長

大臣

次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 人事 文書 會計 秘書官

寫送先

(分類部門類項日マ-ア)

昭和10 2.11 二二八八 暗

上海 本省 二月十二日後着

亞

廣田外務大臣

有吉公使

第一二八號

往電第一〇七號ニ關シ

十日唐有壬他用ニテ本使來訪ノ際本件回答方督促シタルニ付本使ニ於テハ漢口宛貴電第八號ノ趣旨ヲ含ミ然ルヘク應酬シ置キタル處支那側ハ既ニ外國側ノ承諾ヲ得我方回答ヲ待チ居ル趣ニテモアリ冒頭往電回答案ニ前記漢口宛貴電ノ趣旨ヲ加ヘ即チ外交部申越ヲ了承スルト共ニ本件ニ付關係各地駐在領事ニ船會社指導方訓令シ置キタルニ付輸送實行方法ニ關シテハ最寄船會社ト交渉セラレ度シトノ趣旨

外務省

ニテ回答ヲ發スル積リナリ御異存アラハ折返シ御回電ヲ請フ  
北平、南京、漢口、宜昌、重慶、九江ニ轉電シ上海ニ轉報セリ

外務省

電信課長

大臣

次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 人事 文書 會計 秘書官

寫送先

昭和10.2.15 二三四二 暗

南京 本省

十三日後發 二月十三日後着

亞

廣田外務大臣

第一五〇號

本官發支宛電報

第一四九號

閣下發大臣宛電報第一二八號ニ關シ

御參考迄左ノ通

十日「ハウ」ハ本官ニ對シ各船會社ヨリ融通スルモ可ナル旨回答越シタルニ付外交部ニ對シテハ規定ノ賃銀ヲ支拂フニ於テハ借入ニ應スルモ可ナリ但シ之ヲ以テ先例トナスヘカラサル旨申入レ置キタル

外務省

支那各地中歐南洋雜貨會  
支那各地中歐南洋雜貨會  
支那各地中歐南洋雜貨會

カ目下減水期ニテ重慶迄遡航シ得ル船舶ハ事實一隻モナキ由ナリト語リ居ルカ十一日「ベック」ハ約一週間前外交部ニ對シ米國政府ハ各商船會社ニ對シ御申越ノ如キ訓令ヲ發スル權能ナキ旨回答セルカ船會社カ自發的ニ輸送スル分ニハ何等異存ナキ次第ナリト述ヘ居タリ

大臣、北平、漢口へ轉電セリ

上海へ轉報アリタシ

漢口ヨリ重慶、宜昌、九江へ轉報アリタシ

外務省

電信課長

大臣  
次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 人事 會計 秘書官

寫送先

昭和10 2.15 二四〇六

暗

南京 十四日後發  
本省 二月十四日後着

亞

廣田外務大臣

第一五五號

本官發支宛電報

第一五四號

閣下發大臣宛電報第一二八號ニ關シ

本十四日唐有壬ハ本官ニ對シ英國ヨリハ應諾ノ回答アリタルモ重慶迄溯航シ得ル船ハ目下一隻モ無ク米國ヨリハ先ツ拒絕ノ回答アリ(往電第一四九號)困惑シ居ルニ付テハ此ノ際日滿汽船ニ於テ將來ノ事等ヲ考慮ニ入レ利益ヲ離レテ運送ニ從事スル様斡旋方懇願セリ御

外務省

參考迄

大臣、北平、漢口ニ轉電セリ

上海へ轉報アリ度シ

漢口ヨリ廉東、宜昌、九江へ轉電アリ度シ

外務省

支那各地共匪關係雜纂  
支那軍務輸送  
邦船使用關係

集

電信課長

大臣  
次官

東亞  
歐亞  
米洲  
通商  
條約  
情報  
文書  
調查  
人事  
文書  
會計  
會社  
秘書  
官

寫送先

大  
昭和10 二四八九 2.16 暗 漢口 十五日午後發 亞  
本省

廣田外務大臣  
三浦總領事

合第五〇號

本官發支宛電報

第六號

南京發閣下宛電報第一五四號ニ關シ

當地日清支店長ニ爲念問合セタル處同社ニ於テハ政府御指示ノ方針  
ノ下ニ出來得ル限り便宜供與ノ積リナルモ目下ノ減水期ニアリテハ  
本航路ニ就航シ得ル船ハ嘉陵丸(約三百噸)一隻ニシテ同船ノ積載  
能力ハ荷物六〇噸船客(「デツキ」客ヲ合シ)六〇人、月二航海半

外務省

ナルヲ以テ餘リ期待ヲ懸ケラレ難キ次第ナル旨語レリ御參考迄  
大臣、北平、南京、九江、宜昌、重慶へ轉電セリ  
上海へ轉報アリタシ

外務省



寫

機密公第九二號

昭和十年二月十六日

在 中華民 國

特命全權公使 有 吉 明

在 南 京

一等書記官 須 磨 彌 吉 郎 殿

入川剿匪部隊輸送協力方ニ關スル件

本件ニ關シ別紙外交部長宛公文送付スルニ付右轉達方可然御取計相  
成度

本信寫送付先 外務大臣 北平 上海 漢口 重慶 宜昌

別紙添付

在中華民國上海日本公使館

分類A門6類1項5目4-7)

手了

機密公第一一八號

昭和十年二月十六日

在 中 華 民 國

特命全權公使 有 吉

外務大臣 廣 田 弘 毅 殿

昭和十年二月十六日附在南京須磨一等書記官宛機密公第九二號信寫  
送付

入川剿匪部隊輸送協力方ニ關スル件

別紙添付

東亞局

昭和拾年貳月廿六日接

別紙添付

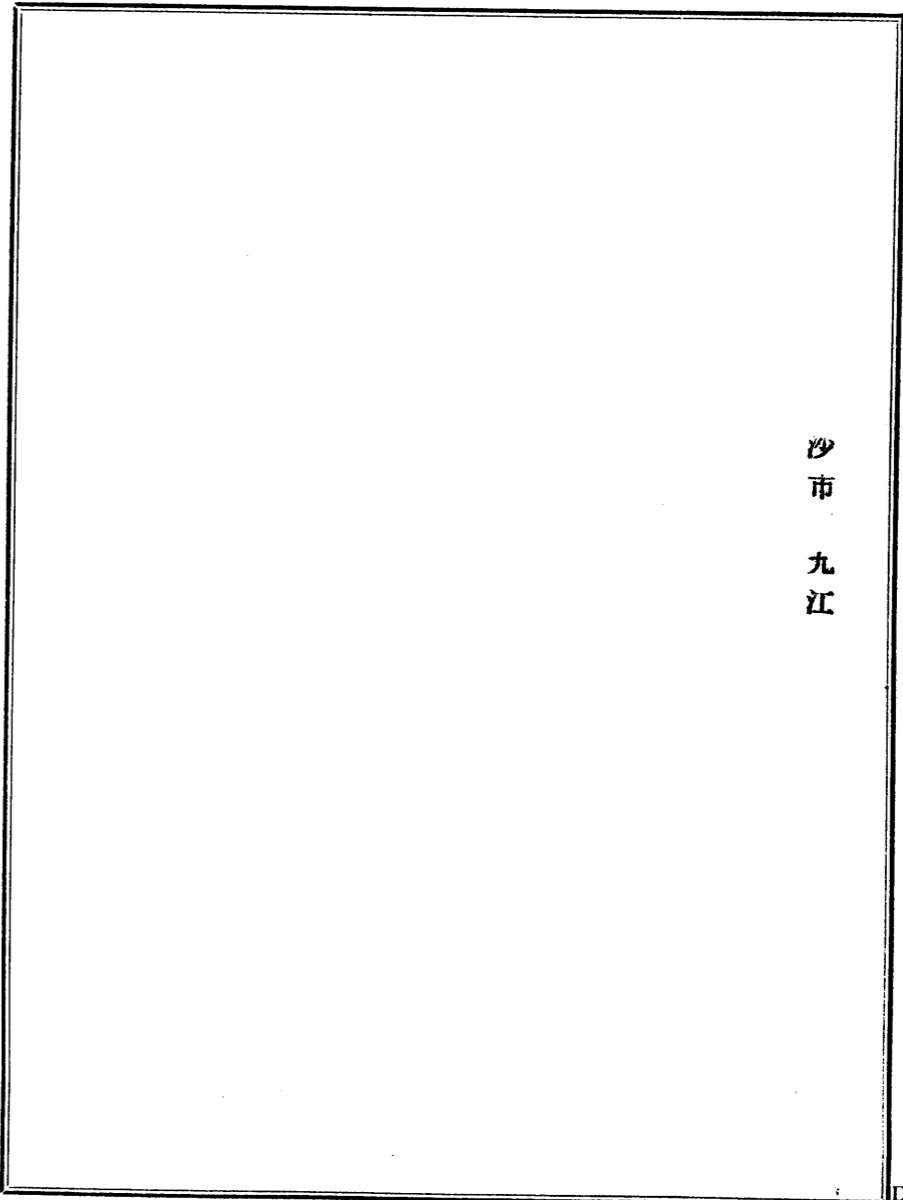
東亞局 10.2.27

第一課

REEL No. A-0859



在中華民國上海日本公使館



沙市九江



外第三號

以書翰啓上致候。陳者、一月二十五日附貴翰ヲ以テ入川剿共部隊輸送ニ對シ日本船會社ノ協力方取計ハレ度キ旨御申越相成敬承致候。本件ニ關シテハ關係各地駐在帝國領事ニ對シ本邦船會社指導方訓令致置候條輸送實行方法ニ關シテハ最寄船會社ト御打合相成度此段回答等本使ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候。

敬具。

昭和十年二月十六日

日本帝國特命全權公使 有吉 明

國民政府外交部長 汪兆銘 殿

在中華日本公使館

支那各地共運關係雜算  
支那軍隊輸送多手船使用關係

集

電信課長

大臣 次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 人事 會計 秘書官

昭和10 2.19 二五八五

暗

漢口 本省

十八日後發 二月十八日後着

亞

廣田外務大臣

三浦總領事

合第五四號

本官發宜昌重慶宛電報

合第五三號

大臣宛拙電第四四號何成濬トノ會談ノ際本官ヨリ御話ノ如ク共產軍カ大打撃ヲ受ケタリトセハ最早四川方面ニ中央軍ヲ増派スルノ必要ナキニ至リタリト思フカ如何ト試問セル處何ハ仰セノ通ニテ現ニ重慶ニ輸送中ナリシ第五十四師モ途中ニテ之ヲ中止シ未輸送ノ約半ケ師ハ目下宜昌沙市一帶ニ止メ居ル次第ナルカ又豫テ軍隊輸送ノ爲徵

寫送先

外務省

發シ居リタル民生公司ノ汽船モ既ニ徵發ヲ解除シタルニ付之レヨリ  
宜昌上流間ノ交通モ恢復スヘシト答ヘタリ  
日清汽船ノ支那軍隊輸送ノ問題モアリ旁右ハ果シテ事實ナルヤ御確  
メノ上御回電アリ度シ  
大臣、支、北平、南京、天津、濟南、福州、廣東、沙市ニ轉電シ長  
沙九江ニ暗送セリ  
支ヨリ上海へ轉報アリ度シ

外  
務  
省

秘

電信寫

本官にC9000/2/1  
各武裝部  
給國信二件  
号

昭和10

暗

南京  
本省

一日後發  
三月一日後着

亞

須磨總領事

廣田外務大臣

第二一九號

本官發支宛電報

第二一五號

往電第一五四號ニ關シ

一日「ベック」ハ本官ニ對シ現在「ヤンツエ、ラピッド」ノ船カ一

隻武器ヲ輸送シツツアル旨内話セリ

大臣、北平、漢口ヘ轉電セリ

上海ヘ轉報アリ度シ

漢口ヨリ九江、宜昌、重慶ヘ轉報アリ度シ

揚子江航行

Handwritten signature and stamp

4月6日 1時45分 4-7)

*My*

一〇三  
四 二二二〇  
五 〇〇二八

無線

安宅發着

(三三九)

*揚子江 艦隊 司令官*  
*右*

上海特務機關首席武官

次官、五水戰、十一戰隊司令官  
次長、三艦隊參謀長、長井

機密第二八番電

米捷公司其平ハ支那兵四百名ヲ佛聚福公司福同ハ同五百八十名ヲ搭載  
何レモ最近宜昌ヨリ重慶ニ遡江セリ、前者ハ海軍護衛兵ヲ搭乘セシメ  
ズ支那軍ニハ衛兵ノミニ武器ノ携帯ヲ許シ其ノ他ハ一括シテ船長ノ保  
管ニ任ズ、後者ハ佛海軍護衛兵 乘リ武器ハ一括シテ之ニ保管セシメ  
運賃ハ一名ニ付銀六弗ノ割ニテ宜昌ニ於テ支拂ハル。

四一二〇三〇

電信課長

大臣

次官

東亞 歐洲 米商 通商 條約 情報 文情 調查 人事 文書 會計 秘書官

昭和19

三五一九

暗

漢口 六日後發  
本省 三月七日前着

亞

廣田外務大臣

第八〇號

本官發支宛電報

第七號

宜昌發本官宛電報

第四號

支へ轉電アリタシ

第三號

當地米、佛、伊三汽船會社ハ上流向ケ支那軍隊ノ輸送ヲ開始セリ日

寫送先

スルコト

務省

清へハ未タ申込無シ

大臣、南京、北平へ轉電アリタシ

支ヨリ上海へ轉報アリタシ

沙市、重慶へ暗送セリ

外務省

支那各地共匪平定後  
支那軍隊輸送ノ為郵能使用ナク